

# 集落協定 かわら版 (第18号)

(平成18年 9月27日 山口県農業経営課)



防府市久兼野ノ下集落協定

面積 田/急傾斜 2.0 ha

参加者 8人

交付金 41万円

県消費者連絡協議会役員で山口県中山間地域等直接支払検討会委員の委員でもある名和田伴江さんが防府市久兼野ノ下集落協定取材しました。

## 都市住民と共に 協力しながら交流

・・・防府市久兼野ノ下(ひさかねののした)集落協定・・・

今回は、防府市久兼野ノ下集落協定の代表者山本喜行(やまもとのぶゆき)さん(61歳)をたずねました。

第一期対策から第二期対策にかけて意識されたことは。

第一期対策では、私自身も都市との交流を始めた時期で、いろいろな取り組みを考え試してきました。

おかげで、都市の人、大学関係者、学

生、マスコミ関係者などいろいろな人との繋がりができたと思っています。

第二期対策が始まったわけですが、協定参加者の高齢化もじわじわと進むわけです。将来を見越すと、やはりだれかに田んぼの管理をまかすことができるしくみを考える必要があると考えています。



(左：名和田委員さん、右：協定代表者の山本さん、棚田をバックにしました。) 交付金の用途は。

共同機械の購入を考えています。現在、ふるさと牧場を中心に都市と農村との交流を行っていますが、この交流を地域全

体に広げていくにはやはり時間がかかると思います。一方で、高齢化や耕作放棄の課題も出てきます。そのため、交流の取組を進め、また、農業に係る経費の節減にも努めながら、共同機械の購入を計画することにしました。

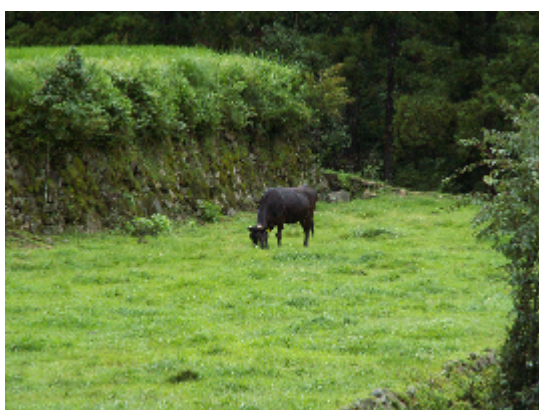
里山の管理に牛を活用しているとか。

今、里山に8頭の牛を放しています。「林間放牧」と言われますが、私が平成3年から放牧を始めました。平成12年からは日本草地畜産種子協会より「持続型草地畜産展示牧場」に指定されています。

地域の資源を活かされているとか。

牛を利用した里山の管理ができるようになると、今度は積極的に「コブシ」、「ヤブツバキ」、「ヤマザクラ」を残すように管理するようにしました。

徐々に山には、これらの花々がすばらしい景観を創ってくれるようになりまし。やがて、蝶々が花に集まるように、いろいろな人が集まって来るようになりました。



(放牧されている牛)

都市との交流の始まりですね。

人が集まるようになり、「こぶしの花見会」が、牧場の毎年の恒例行事となっ

てきました。

平成12年8月には林間放牧を中心とした耕・畜・林による里山の整備、景観の形成、人材の育成を目的としたボランティア組織「こぶしの里牧場交遊会(こぶしの会)」が発足しました。

交流の拠点づくりをはじめられたとか。

都市の人と協力して全くの手作りで、「交流ハウス」の建設に取りかかっています。柱、梁などの材料も全て自分達で調達しています。

まだまだ、時間はかかりますが、楽しみながら取り組むことが良いと思います。



(建設中の交流施設)

どのような方が参加しているのですか。

これから農村を維持・発展させていくには都市の人を巻き込んでいくことが重要と考えています。「こぶしの里牧場交遊会」には、主に中国地方の方々ですが会社員、大学関係者、学生、マスコミ関係者などなどいろいろな人が参加しています。

交遊会の展望は

交遊会が、地域に根付いていくよう活動を行っていきたいと考えています。

中山間地域等直接支払制度を活用しながら、だんだんと広がっていくことを願っています。将来的には、交遊会がNPO法人になることも考えています。

学生が体験にこられるとか。

農業体験には、小学生から大学生までが来ています。交遊会の活動に大学教授が参加するためか、大学生が自ら体験したいとの希望も出ています。最近も、東京の大学から数名が来られました。

やはり、ここへ来て実際にここを感じてほしいと思っています。体験と言っても特別なことはしません。自分たちで役割を見つけて、この中山間地域や農を感じてほしいと思っています。五感で、地域を感じてほしいと考えています。

ここで農業を体験した人の感想は。

学生には、農業について絵を描いてもらっています。若い人には、農業や中山間地域での生活を通して何かを感じてほしいと思っています。特別なものは求めています。そういえば、学生さんが、自分の出身の地域の郷土料理をごちそうしてくれる機会があり、そのときは、学生は大いに語り、こちら也大いに元気をもらいました。

～ 中山間地域の多面的機能が発揮される活動が展開されているようです。

(井上)

～～～編集後記～～～

里山での放牧と都市農村交流が地域の資源を輝かせ、都市生活者の元気をも呼び起こそうとしていました。

井上、日高

県農業経営課 電話 083-933-3350

～～取材を終えて～～

名和田 伴江

昨夜から降り続いた雨で取材が心配されましたが、当日は雨も上がり、防府市久兼野々下集落を訪ねることができました。

当地域は、大平山の北側に位置し、険しい地形の中、急傾斜の棚田が耕作されていました。防府市街から車でおよそ30分、奥へ奥へと入っていくと「ふるさと牧場」があります。牧場へ登っていく道は「日光のいろは坂」を思わせるような急傾斜です。

悪い条件の中での農作業ですので、大変なご苦労だと思いました。

私たちが到着すると、山の中腹から、二頭の牛が出迎えてくれました。

集落協定代表の山本さんにいろいろな話を伺った中で、「牛が里山の下草を食べて、里山を守っている。」と言う言葉が強く心に残りました。

集落の棚田の石垣は江戸時代に組まれたそうで、人々の昔からの営みを感じました。

土地を守り、地域を守り環境保全の農業を目指しておられる熱い思いが伝わってきました。

他にも、小、中、高、大学生の体験学習を受け入れるなどして、都市と農村との交流を広げていきたいと、日々努力されています。

「こぶしの花」が咲く頃、是非また訪ねたいと思います。

時折、小鳥のさえずりが聞かれ、いやしの里での元気をいただいた一日でした。